

2017年

秋の課題作文優秀作品

【小学部】

センター北校 K・Tくん（都築小）

ぼくは、何かを集めることが好きです。特に気に入ったおもちゃがあると、一つでは満足できずに全種類が集まるまでそのおもちゃを買いたくなります。しかし、たくさん集まってくると、今度は別のおもちゃが欲しくなってきました。今まで集めてきたものでは遊ばなくなってしまうことがあります。そうすると、親からはもったいないと叱られるし、自分でもこんなに買わなければもったいないのが買えたのにと後悔したことが何回もありました。同じ失敗をこれからしないために有効な抑止力を考えてみることにしました。

一つ目は、何かを買いたくなつた時に、「これを買おうと、もつと欲しいものが見つかった時に、お金がなくなつて買えなくなってしまう」と考えることです。僕はまだ自分で働いてお金をもらうことができません。親から小遣いとしてもらった大切なお金ですから、何に使うのかよく考えないと、本当に必要な時にお金がなくて困ってしまいます。

二つ目は、欲しいものが見つかって、すぐには買わずに一ヶ月待つようにすることです。待つ間に欲しいものをお店でよく見たり、手に入れた友達から話を聞いて調べたりします。そして、一ヶ月経つても自分が欲しいと思うものだったら、買って後悔しないで長く使えそうだからです。もし待つ間にあまり欲しくなくなったらそれを買うのは止めて、次に欲しいものを見つけるまで待てば、むだ使いをしないで済みます。

僕がこれからより良い大人に成長するために、お金や物を大切にしていきたいと思えます。欲しいものがあっても、それが本当に必要なものかよく考えて、持っているものを大事にしてむだ使いたないようにしたいです。他にも自分のよくないところに気づいたら、それを直す抑止力を自分に持てるように取り組んで行きたいです。

【中学部】

長津田校 T・Rさん（田奈中）

「何かをやりとげると、その次が無い。」これが私の悪いところであり、改善したいことである。一番身近なことで言うと定期テストだ。一生懸命勉強した時のテストの結果は言うまでも無く良い。でもその次のテストで、疲れているのか油断しているのか、結果が悪い。部活動でも同じだ。少し良いプレーをしただけで満足してしまい、結局その後はチームに貢献できなかったということがこれまでも何度かあった。このような弱い自分だから、もう一回り成長できずにいる。それを解決するための抑止力を考えた。それは前向きな気持ちへのコントロールである。これを大きく二つに分けて考える。

一つは、物事を始める前の心づくりだ。何事もやる気がないと始まらない。だから、勉強で考えるのだとしたら、テスト一ヶ月前に志望校のパンフレットを見たり、点数の悪かったテストを見返したり、努力した人の話を聞くなどだ。これらを実際に試したところ、怠ける気持ちが追い立てられ、負けず嫌いな私にぴったりの方法だと思った。

二つ目はやっている最中の心のコントロールだ。スポーツに置き換えて考えてみる。例えば、自分がシュートを入れて、先生にもほめられたとする。このとき、「よっしゃー！自分調子いい。乗ってきたー！」と思うようにするのである。このように、何かを一生懸命やっているときは、心を立ち止まらせるのではなく、前へ前へと進めることを意識するのだ。

気持ちをコントロールするのは簡単なことではない。だが、物事を行うことと心とは密接な関係があると思うから、それができれば自分の持っている力よりもさらに大きな力を発揮できると考える。そのために私は、マイナスイライヤをするのをやめることから始めていきたい。そしていつかは周りの人の気持ちも良い方向に持っていけるような、影響力のある人間になりたいと思っている。

中山校 O・Aさん（中山中）

「自分自身の良くない行動や悪い癖を直していくための有効な抑止力を考えてみてはどうだろうか。」というところで、私はまず自分の悪い癖を見つめ直してみた。

一、やるべきことを後回しにしてしまう。

二、時間を有効活用できない。

三、マイペースで周りより行動が遅くなる。

主にこの三つが思いついた。これらを直すにはどんな抑止力が私にとって有効なのだろうか。

頭の中で考えていたときに、これらの対策となる抑止力全てに共通した力が必要であることに気づいた。それは、先を読んでイメージする力だ

例えば、一番の場合でイメージすると、「もし、これをやらなかったら…」と想像する。大体の場合、やるべきことを後回しにすると後で困ることになる。宿題だったら締め切り前日に夜更かしして終わらせて寝不足。翌日の学校の準備だったら朝の忙しい時にドタバタして遅刻するなど、イメージすることができる。このように後で自分が困る様子を「イメージ」できるから「じゃ、今のうちにやっておこう。」と「先を読んで」行動できる。

二番と三番の場合も同じで。時間を有効に使うと思えば「今、何をすれば後で楽になるか。」周りより行動が遅くなってしまうのであれば「今、何をすれば物事をスムーズにこなせるか。」などと、先を読むために考えることができるのではないだろうか。

私は今回、自分の悪い癖を直すためにどうすればよいかを考えてみて自分に合う抑止力を自分で見つけることができ良かったと思う。実はこの作文も提出期限ギリギリで出した。つまり、それまで後回しにしていたのだ。たった一分足らずでできるような「先を読んでイメージする」ができていれば、一週間くらい前からコツコツと進め、余裕を持って終わらせられただろう。なので、先を読んでイメージするのを習慣にして悪い癖を直したい。

Ⅱ特別賞Ⅱ

特別賞受賞作品に関しましては、受賞理由となった秀逸な表現を抜粋して掲載致します。

【小学部】

センター北校 H・Rくん（南山田小）

僕には一つ抑止力が働いていないことがある。それはゲームをやりすぎることである。「○分だけ」と決めても、ゲームが楽しくてつい時計を見なかったり、見たとしても「もう少しだけ」とのぼしてしまったりすることがある。よくないと分かっていてもやってしまう、つまり抑止力が全然足りていない。そこで、抑止力を身に付けるために三つ考えた。

〜中略〜

この三つの方法で、すぐに抑止力がつくわけではなくて、少しずつ抑止力がついていくと思う。そして、自分の悪いところ、良くないところを直していきたい。〜以下略

【中学部】

中山校 S・Yくん（中山中）

抑止力とは、自分の行動を思いとどまらせる力のことである。僕にとってそれは「想像すること」だ。

〜中略〜

なぜなら、ゲームばかりしていたら、勉強がおろそかになり成績が下がるかもしれない、今まで目指してきた高校に行けなくなるかもしれない、見守ってくれている両親の信頼を失うかもしれない、という危機感を、常に持っているからである。つまり、自分の良くない行動によって起こりうる最悪の事態を想像しているのだ。これが僕にとって最も有効な抑止力だ。〜以下略